

# 令和3年度 事業計画

社会福祉法人登別さいわい福社会

## 法人の基本理念

障がい者総合支援法に基づく障がい者福祉にかかわる施設を運営する社会福祉法人として、利用者の方々の生命及び財産を守り、利用者の視点に立った支援を責務とし、また、障がいの程度に関わらず「街で働き、街で暮らす」社会自立(律)を実現できるよう役・職員が一丸となり、利用者の社会参加及び地域福祉の充実に寄与していくことを法人の基本理念とする。

### ○支援の理念

- (1)利用者の生命を守る支援
- (2)利用者の財産を守る支援
- (3)利用者の視点に立った支援
- (4)利用者の社会参加への支援

### ○援助の基本

利用者の視点に立った支援の提供  
利用者から信頼され、選択される福祉サービスの提供  
利用者の障がい程度、種別に関わらず安定したサービスの提供  
福祉の専門家としての意識改革

安定的な事業運営の持続及び徹底したコストマネジメントの創意工夫の実践  
地域の中での普通の生活を支える(ノーマライゼーションの原理)  
利用者との約束した事柄はしっかり支える(契約に基づくサービスの提供)  
利用者個人及び家族に必要とされる施設作りを目指す  
利用者の障がいを尊重した適切な支援を実践する

### ○福祉サービスの基本

1. 福祉サービスの手法として絶対に体罰を用いない
2. 常に開かれた法人・施設になるように努める
3. 地域との交流を図る
4. 職員は常に研修に務め自己研磨する
5. 職員は報告、連絡、相談を綿密に行い、且つ積極的に行動する
6. 職員は虐待行為を絶対にしない

# 社会福祉法人登別さいわい福祉会の事業

## 1. 社会福祉事業

### ① 就労継続支援施設 B 型事業

○就労継続支援施設 月とらいおん(定員 40 名) 開設平成 19 年 4 月

### ② 生活介護事業

○サポートセンター 心 愛 (定員 20 名) 開設平成 29 年 10 月

### ③ 共同生活援助事業

○地域生活支援センター oneself (定員 28 名) ※令和 2 年 5 月 1 日より

《各住居》

- ・グループホームちとせ(定員 5 名 男性) 開設平成 20 年 10 月 (H21.9 移転)
- ・グループホームときわ(定員 5 名 男性) 開設平成 21 年 3 月
- ・グループホームあおい(定員 7 名 男性) 開設平成 21 年 4 月 (H25.11 移転)
- ・グループホームすみれ(定員 7 名 女性) 開設平成 21 年 1 月 (H29.4 移転)

## 2. 公益事業

生活困窮者等に対する安心サポート事業

平成 30 年 4 月より開始

はじめに

昨年の始めから新型コロナウイルス感染症が世界中、国内中に猛威をふるい、これまでに経験のした事のない流行となりました。当該法人の各事業所に於いても各行事等を全て中止し、感染予防の観点から手洗い、マスク着用、各手すり等の消毒、定期的な空気の入替、送迎車両の消毒等の徹底を図ってきたところです。併せて職員はもちろん利用者及び保護者に対して感染拡大地域への往来の自粛、不要不急の外出の自粛、感染地への移動の場合の2週間自宅待機等の要請を文章にて保護者及び職員に通達を適時配布してきたところです。

また、保護者の協力のもと施設内での密を避ける意味から在宅支援も並行して行うことで感染拡大予防を図ってきました。これら多くのご協力を頂いたことにより、現状としては一人の感染者を出すこともなくこれたこの一年間は本当に奇跡に近いものを感じるほどです。いまだに終息が見えない中、国をはじめ北海道等の自粛に伴い感染者数は少なくなっはきているがウイルスの変異株感染も北海道内に於いても出てきていることから、予断は許さない状況には変わりなく、引き続き感染予防を徹底していかなければならないと思っています。

### 【1】令和 3年度 基本方針

法人の支援理念や基本に基づき利用者の安全・安心を最優先に利用者一人ひとりにあった社会参加を目指すことで利用者の安定した生活・就労を目指すことに変わり無く、職員のチームプレーで手厚い支援をしていくものとします。そして、職員は常に問題意識を持ち利用者それぞれにあった支援を心掛け、法人及び各事業所は自ら資格取得を目指す職員に対して特段の配慮に努めていくものとする。

昨年12月末に生活介護事業所「心愛」の賃貸契約業者から6カ月後には建物を解体したいという話しが突然有り、内部に於いて早急に対応の検討に入っていたが、本年1月にその話しは無かった事ということで撤回されました。しかし、現在の心愛事業所は賃貸契約期間があと3年半しかない事を受け、心愛の移転計画を本格的に進めていかなければならないと思います。ここ数年は、銀行等を含め移転場所を模索してきましたが、立地、環境、金銭面等で市内に於いては適当な場所が見つからず検討を先延ばしにしてきたところです。令和3年度に於いては本格的に計画を立て、移転計画を重点的に進めていきたいと考え適時提案をしていきたいと考えています。 ついては、現状でのコロナウイルス感染の見通しが明確になっていない中、前年度揚げた事業について継続せずに次年度については、コロナウイルス感染の推移を見ながら心愛移転を重点的に推し進めていきたいと考えています。

次に現在運営している就労B、共同生活、生活介護の3事業で約60名の職員で日々の支援を行っているがいずれの事業所も職員確保に苦慮しており、職員採用は殆どが中途・転職者が占めており新卒者については皆無である。このような中、特に共同生活の夜間支援職員については高齢者が多く、ここ数年のうちに退職していく者が出てくることは必須であることから、人員確保には多方面に機会がある毎に求人を出していくとともに、これから10年を見え透いた事業体制の検討もしていかなければならないと考えます。

## 【2】重点目標

### 1. 法人としての安定した経営機能の充実

- (1) 生活介護事業所移転計画の立案等
- (2) 3事業体制の見直し
- (3) 社会福祉法人の公的取組の実施
- (4) 行政機関及び関係機関との連携
- (5) 感染予防の徹底

### 2. 事業経営の展望

- (1) 効率的・安定的経営基盤の確立
- (2) 施設整備計画等
  - ①生活介護事業所「心愛」移転計画

### 3. 自然災害時の対応及び備蓄の整備

- ①コロナ等感染に対する備品備蓄
- ②非常食の整備

### 4. 職員確保及び資格取得の推奨

- (1) 各職員のスキルにあった研修会への参加
- (2) 虐待及び強度行動障がい等への積極的研修参加
- (3) 職員の定着率の向上と人材確保の推進
- (4) 資格取得の啓もう等

### 5. サービス(支援)の質の向上

- (1) 利用者及び保護者のニーズに基づく個別サービス計画の策定と個別支援計画に基づく実践
- (2) ケースの検討及び職員間の共通認識を図り統一した支援をしていく

### 6. 業務運営体制の確立

- (1) 組織図に基づく業務責任体制の確立
  - ①業務指示・報告・連絡・相談の徹底
  - ②職員間のコミュニケーションの徹底
- (2) 職務分掌に基づく役割の徹底
- (3) 業務内容の点検と精査
- (4) 業務の効率化・省力化の推進
- (5) 利用者個々の見極めによる支援体制の見直し
- (6) 経営事務の合理化
- (7) 各事業所定例会議での周知の徹底

(8)各事業所間の連絡調整

## 7. 施設・設備の整備及び周辺環境の整備

- (1)グループホーム等感染等に於ける別棟の整備
- (2)各施設内外の環境整備

## 8. 防災における地域との連携の確立

- (1)防災計画書の作成、防災マニュアルの随時点検
- (2)火災のほか自然災害(地震・津波)を想定した訓練の実施
- (3)災害時の地域との連携を図る意味でも日々の関わり

## 9. 地域との協力・連携

市内の関係施設との協力・連携を図り相互交流を積極的に推進するとともに地域に密着した法人・施設運営を展開する。

## 10. 役員の研修の実施

道社協等の役員研修に参加

# 就労継続支援施設 月とらいおん事業計画

はじめに

施設外を中心に一般就労を目指し当該利用者たちの支援を昨年度は推し進めていく予定でしたが、当初の思惑と違い新型コロナウイルス感染が国内・国外に於いても蔓延し世界的にも感染が広まり、渡航禁止等の禁止で観光客の大幅な減少となり、当登別温泉に於いてもホテルは一時的閉鎖するなど措置がなされています。

このことによりホテル関係の清掃は皆無となりました。しかし、白老の椎茸業者からの仕事の依頼があり、新型コロナウイルスの関係から保護者や利用者本人に希望者を募って10名前後が12月末まで菌床の移動・水漬け、キクラゲの選別等の作業に従事することができ、本年、令和3年3月より再開しています。これらの作業については観光業が再開するとホテル清掃も始まることから契約は短期期間として様子を見ながら行っているところです。併せて市内をはじめとするイベント参加についても昨年度に引き続き状況を見ながら進めていきたいと考えています。

うどん店も不特定多数の客が来ることから、閉めたままの状態では様子を見てきましたが新型コロナウイルス感染の終息が見えない、変異ウイルス感染拡大などの現状を受け、うどん店は閉鎖のまま様子見をし、色々な意味で新型コロナウイルス感染の改善が見られるようになってからの再開と考えているところです。

また、体験学習やボランティアの受入れ、イベント参加については、新型コロナウイルス感染状況により要請があっても断ることは十分にあります。

行事等については、昨年度は全て中止としましたが、今年度についても状況によりその都度決定していく予定です。

## 1. 運営方針

職員が自主的・主体性をもって質の高い支援に取り組み、自己研磨に務め。職員間の連携のもとに利用者一人ひとりの自立(律)に向けて誠意努力をする。

## 2. 運営にあたっての重点目標

### ①工賃向上

前年度に続き3科5作業体制(うどん、とうふ、室内、畑、施設外)で利用者の自立(律)に向けた工賃増額のための作業運営を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染の影響でイベント販売の中止、うどん店の一時閉鎖や施設外の一時的引き上げ、在宅支援の強化等々があり売上は減額となっております。ただ、年度途中から始めたにんじくの生成作業も取り入れるなどコロナ禍に於いても少しでも売上増を図るべく考慮しております。ただ、いずれにしてもこの新型コロナウイルス感染

の落ち着きが見られない限り前には進まないことは確実なことと思っています。しかし、今年度より給付費が工賃支給額により単価設定が変わることになっていることから、心愛の移転に伴い就労 B の体制の見直しと工賃規定の見直し、利用者の支援についての見直し等々を考えていかなければならないと思っています。これは、ここ数年に於いて就労 B への利用希望者が減少してきていることなどをふまえ、また、一向に改善されない工賃向上を図る意味でも作業科体制の見直しをしなければならないと考えています。

次に各科について次のように考えていく一年としたいと思います。

#### ◎うどん

前記したようにコロナウイルス感染拡大に伴い昨年より閉めた状態で月に 2 回程度生うどんの販売をしたり、利用者の昼食の提供等を行いながらおこなって来ていますが、現状のコロナ禍では先行きは一向に見えない状況であり、不特定多数の人が利用する店では感染者を出す可能性は大であることから、まだまだ閉鎖の継続をしていきたいと思っています。いま行っている昼食の提供を中心に進めていき、状況次第では開店したいと考えています。

#### ◎とうふ

イベント販売については、いまのところ本年も予定が無いことから、こちらも状況を見ながらいきたいと考えています。現状としては、うどん店での直販売、ふるさと納税の返礼品、保育所の定期的なおやつ、市役所等の月 1 回の販売だけとなっており、これを継続していくとともに新商品の開発も行っています。

#### ◎はたけ

水耕栽培は年間を通して行い、露地物は春から秋までの育成となっています。主な販売先は地元や室蘭の各生協ですが販売量に増減があり単価的にも安価であるために売上の伸びは伸びず、特に冬場は光熱水費等の経費が多額になることから冬場(12月～2月)に於いての水耕栽培を止めることで経費節減をしながら代替りの作業について考えていきたいと思っています。春から秋までの栽培については例年より収入増が望めるように作付け等の検討をしていきます。

#### ◎室内

下請けが主となっており、いま現在は、保冷剤関連とウニ板に昨年からのポストイニングと室内で栽培するにんにく作りを行っています。ゼリー等はコロナウイルスの関係で仕事は全く無い状態です。にんにく栽培については、当初はパレットで行っていましたが播種や収穫、温度管理に手間がかかることから施設内の一角に部屋を作り栽培を行っています。販売先は生協さんが主で春以降には登別、室蘭イオンでも販売する予定です。食べ方も含めまだまだ認知度が低いことからイベントでの対面販売なども検討していく予定です。

#### ◎施設外

コロナウイルスの感染拡大により、ホテル清掃も中止にして1年以上になりました。当初は、ある一定の期間だけと考え、施設外の性格上なんらかの対応とし



てフォーレ白老のしいたけ作業に出向いたのですが、冬場の道路事情等も考え昨年12月で一旦終了したのですが、ホテル観光業の先行きが見えない現状ではいまのフォーレ白老での作業を継続していきながらコロナウイルスからの回復状況を見ながら進めていきたいと考えています。ただ、3月中旬以降からホテルが再開するという話もあることから、要請があれば1ユニットからでも始めていきたいと考えています。

#### ②体験学習及び実習生(ボランティア)の受入れ

1. 養護学校をはじめ市内の特別支援学級生の体験学習や実習の受入れを行う
2. 大学生や短大生及び専門学校生の教育実習等を積極的に受け入れていき、進路当の選択肢の1つになるように支援や相談をしていくことで、この施設が地域資源の一つとしての認識を深めることにつなげ、地域に開放している事業所を目指す。
3. 障がい者に対する理解と啓もう活動の一環として実施している「ハートフル体験学習」等も積極的に参加して受け入れていく

#### ③地元イベントへの参加

例年、地元地域のイベントには積極的に参加しており、これは啓もう活動の一つとしてとらえて利用者や職員が地域の方と交流を図る場と考えています。

#### ④一般就労への推進

施設外就労を通して働くという意識を養い、一人でも多くの利用者が一般就労し自立していけるよう支援していく

### 3. 事業の内容

#### ①個別支援計画の策定及びモニタリングの定例実施

#### ②施設作業科による支援の実施

##### ○第一作業科(畑・室内)

野菜作り(水耕栽培によるリーフレタス・露地栽培による蕪等)

下請け作業(ゼリー箱詰め、保冷剤、ポスティング等)

にんにく栽培

##### ○第二作業科(とうふ・うどん)

北海道産大豆を使用した豆腐の製造及び菓子製造・販売

さぬきうどんの製造及び提供

売店販売(とうふ、シフォンケーキ等)

○施設外就労

ホテル客室清掃・フォーレ白老菌床移動等

③行事の実施

季節行事(心愛と合同行事)・・・花見(5月)・納涼祭(8月)・忘年会等(12月)

宿泊研修

日帰り研修

④災害における避難訓練の実施

火災はもとより自然災害(地震、津波、洪水等)を想定した訓練の実施

就労継続支援施設 B型事業所 月とらいおん

①年齢構成

令和3年3月31日現在

	男(人)	女(人)	合計(人)	割合
20歳未満		1	1	3%
20～29歳	6	4	10	29%
30～39歳	5	3	8	24%
40～49歳	6	4	10	29%
50～59歳	3	1	4	12%
60歳以上		1	1	3%
合計	20	14	34	100%

②障害程度

	男(人)	女(人)	合計(人)	割合
A判定	5	5	10	29%
B判定	13	8	21	62%
不明	1	0	1	3%
精神障害	0	1	1	3%
手帳無し	1	0	1	3%
合計	20	14	34	100%

③支給決定市町村

	男(人)	女(人)	合計(人)	割合
登別市	15	8	23	68%
室蘭市	4	5	9	26%
苫小牧市	0	1	1	3%
千葉市若葉区	1	0	1	3%
合計	20	14	34	100%

④事業所利用前経路

他の就労継続支援施設 B型	5	14%
就労継続支援施設 A型	1	3%
知的障害者施設(入所・通所)	7	19%
養護学校	14	39%
在宅	4	11%
その他	5	14%
合計	36	100%

# 生活介護事業所 サポートセンター心愛 事業計画

はじめに

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大により、在宅支援の実施や行事の中止などおおしく活動を自粛しなければならないことになりましたが、いまだに改善の方向は見えない中、新たに変異株も出てきている現状では、今年度に於いても活動を自粛しながら状況を見定めながらの運営になると思います。また、移転については本年度より具体的な動きしていくなかで現状から見える不備な点も含めて改善策を提案していきたいと考えています。

また、体験学習や実習生の受入れ、行事等については新型コロナウイルス感染状況を考慮しながらその都度検討していきたいと思いますが、行事の中止や受入れ等については感染予防の観点からも受入れの拒否もしなければならないと考えています。

## 1. 運営方針

日常生活上の支援や入浴、排せつ及び食事の介護、そして創作活動又は生産活動の機会を提供するとともに、その他日常生活などにおける相談等を行い、個別活動を通して生活の質の向上、身体機能の維持・向上を図ることを目的とし施設を利用する一人ひとりが本人らしい生き方や自己実現ができるように支援していく。特に生産活動は全員が関わられるように配慮し、社会参加をしているという認識を養うように支援をする。

## 2. 運営にあたっての重点目標

### ①安定したサービスの提供

- ・障がいの程度、種別に関わらず、一人ひとりが豊かな人生をすこしでも歩んでいけるよう利用者の視点に立った支援をしていく
- ・職員が協力し利用者一人ひとりが達成感や自信を引き出せるよう支援していく
- ・利用者の障がいや特性を充分把握し職員の連携した支援を行う
- ・利用者が安心して通所できるよう常に安全で明るく清潔な環境を作り、職員と利用者が信頼しあえる家庭的な環境作りに努める
- ・趣味やレクリエーション、創作活動等を通して日中活動の充実を図り、自分のもてる力が発揮できるよう支援する。
- ・利用者一人ひとりの生活・障がいの状態をよく理解した上で、利用者本人が自己決定できるように利用者中心の支援をしていく

### ②体験学習及び実習生(ボランティア)の受入れ

1. 養護学校をはじめ市内の特別支援学級生の体験学習や実習の受入れを行う
2. 大学生や短大生及び専門学校生の教育実習等を積極的に受け入れていき、進路当の選択肢の1つになるように支援や相談をしていくことで、この施設が地域資源の一つとしての認識を深めることにつなげ、地域に開放している事業所を目指す。

3. 障がい者に対する理解と啓もう活動の一環として実施している「ハートフル体験学習」等も積極的に受け入れていく

### 3. 事業の内容

①個別支援計画の策定及びモニタリングの定例実施

②日中活動の実施

- ・生活支援(食事・排せつ・入浴・整容・清掃・リハビリ等)
- ・作業支援(生産活動・軽作業・ポスティング・創作活動・自立課題等)
- ・余暇活動支援(行事・集団レクリエーション・カラオケ・調理等)
- ・健康管理(体力作り・服薬管理等)

③行事の実施

- ・季節行事(月とらいおんと合同) 花見(5月)・納涼祭(8月)・忘年会等(12月)
- ・日帰り行事

④災害における避難訓練の実施

火災はもとより自然災害(地震、津波、洪水等)を想定した訓練の実施

⑤感染マニュアルによる清拭等の徹底

## 生活介護事業所 心 愛

### ①年齢構成

令和3年3月31日現在

	男(人)	女(人)	合計(人)	割合
20歳未満	2	0	2	7%
20～29歳	8	2	10	33%
30～39歳	4	3	7	23%
40～49歳	1	2	3	10%
50～59歳	0	2	2	7%
60～69歳	2	3	5	17%
70歳以上	1	0	1	3%
合計	18	12	30	100%

### ②障害程度

	男(人)	女(人)	合計(人)	割合
A判定	11	3	14	47%
B判定	1	2	3	10%
不明	5	7	12	40%
精神障害	0	0	0	
身体障害	1	0	1	3%
合計	18	12	30	100%

### ③支給決定市町村

	男(人)	女(人)	合計(人)	割合
登別市	9	10	19	63%
室蘭市	6	1	7	23%
白老町	0	0	0	0%
大阪港区	1	0	1	3%
大阪西区	1	0	1	3%
春日部市	1	0	1	3%
さいたま市	0	1	1	3%
合計	18	16	30	100%

# 共同生活援助 地域支援センターoneself 事業計画

はじめに

コロナウイルス感染拡大により、当初予定していた女子の新規グループホームについては、急遽感染者が出た場合の隔離先や待機場所として考えてきたが、いまだに先行きが見えない現状では今年度についても引き続き、女子のそのような利用場所として確保しておきたいと考えています。男子については、昨年寄贈されたアーニス裏の住宅兼店舗の利用を考えているところです。コロナウイルス感染が今後どのような形で終息していくのかわかりませんが、ホームとしても不要不急の外出も避けていかなければならないと思います。また、昨年、出来なかったスプリンクラーの設置工事についても凍結としておきながら状況の推移をみて今後を考えていきたいと思っています。

自粛が続いている中、週末帰省などが出来ない利用者にとっては、ストレスが溜まり、それがトラブルに繋がることもあることから、気分転換できるようなことも考えていかなければならないと思っています。

## 1. 運営方針

利用者が街で暮らす生活の場として、個々が安全・安心して生活し地域の一員として暮らせるよう支援していく。また、月らいおん及びサポートセンター心愛との連絡を密にして連携しながら支援していく

## 2. 運営にあたっての重点項目

- ①障がいの程度に関わらず安心・安全な生活ができるよう支援していく
- ②地域との関わりを大事にしていく
- ③余暇活動など最低月1回の外出等に出かける
- ④週末等家族との関係維持の意味も含め週末帰省の実施をする
- ⑤保護者との関係性を保つ

## 3. 事業の内容

- ①個別支援計画の策定及びモニタリングの定例実施
- ②日常生活の支援、相談・助言、余暇支援、金銭管理の援助
- ③災害における避難訓練の実施  
火災はもとより自然災害(地震、津波、洪水等)を想定した訓練の実施
- ④感染マニュアルによる清拭等の徹底

## 地域生活支援センター oneself

### ①定員数・利用者数

令和3年3月31日現在

名称	種別	定員数	現員数	利用率
ちとせ	男性用グループホーム	5	5	100%
すみれ	女性用グループホーム	7	7	100%
あおい	男性用グループホーム	7	5	57%
ときわ	男性用グループホーム	5	5	100%
合計		24	21	87.5%

### ②年齢構成

	ちとせ	すみれ	あおい	ときわ	合計	割合
20歳未満	0		1	0	1	5%
20～29歳	1	2	0	1	4	19%
30～39歳	3	3	2	0	8	38%
40～49歳	0	1	1	2	4	19%
50～59歳	1	1	0	1	3	14%
60歳以上	0	0	0	1	1	5%
合計	5	7	4	5	21	100%

### ③障害程度区分

	男(人)	女(人)	合計(人)	割合
区分6	2	1	3	14%
区分5	3	1	4	19%
区分4	4	2	6	28%
区分3	3	2	5	24%
区分2	1	1	2	10%
区分1	1	0	1	5%
合計	14	16	21	100%